



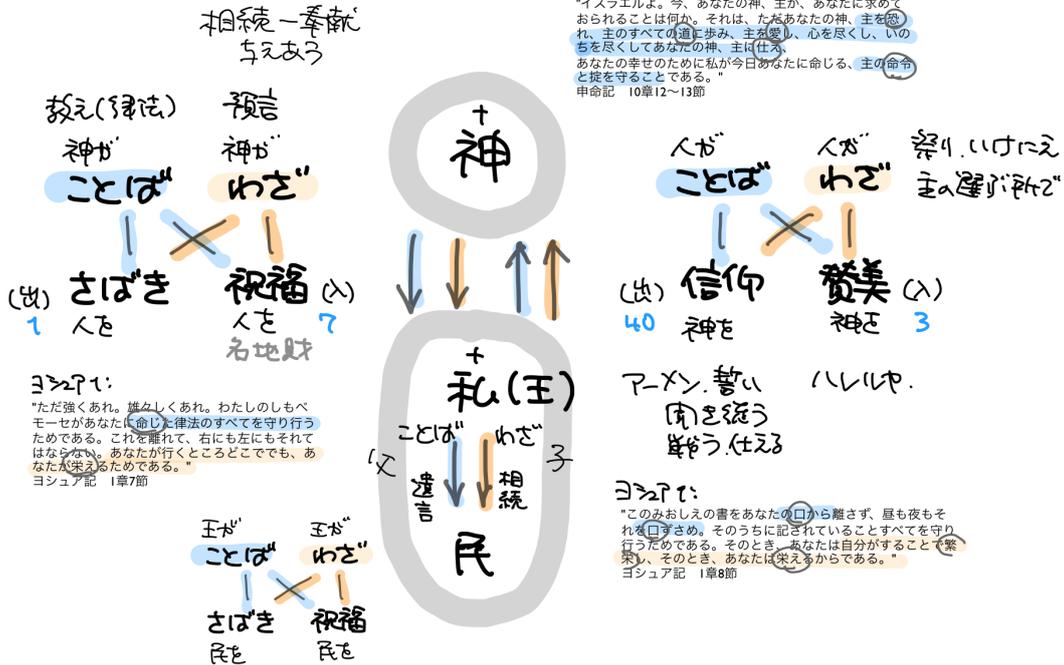
# アブラハム契約・ダビデ契約

## 神と民との契約関係図

2018.8.23

申10:

“イスラエルよ。今、あなたの神、主が、あなたに求めておられることは何か。それは、ただあなたの神、主を愛し、主のすべての道に歩み、主を愛し、心を尽くし、いのちを尽くしてあなたの神、主に従え、あなたの幸のために私が今日あなたに命じる、主の命令と掟を守ることである。”  
申命記 10章12～13節



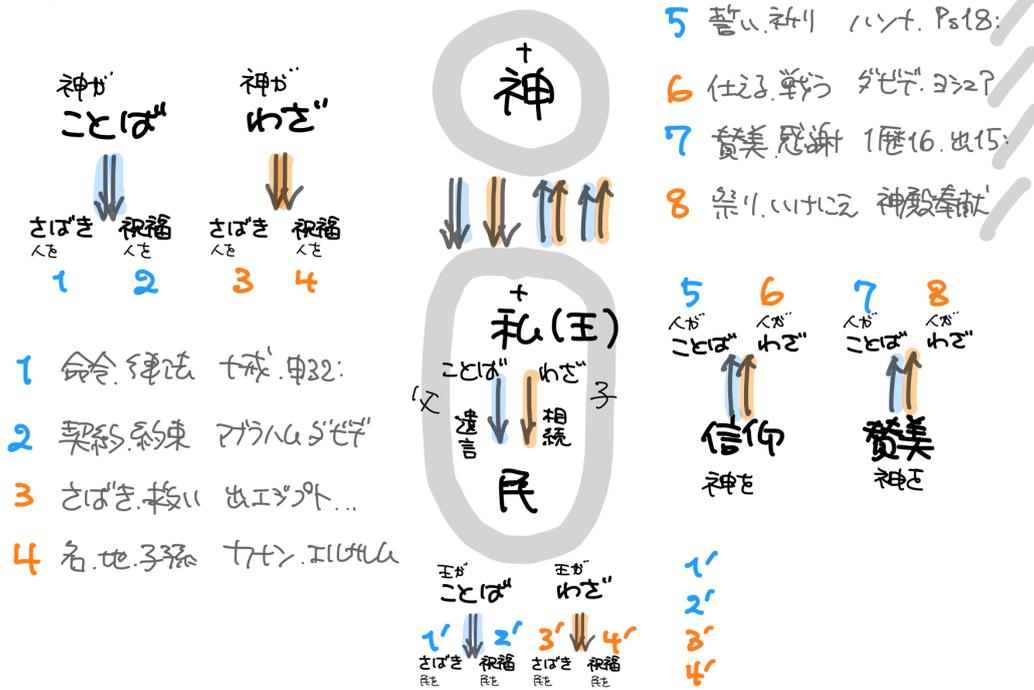
神様と民との契約関係図ということで、歴史の流れを覚えるために、なかなか出来事の関係が、歴代誌、サムエル記、列王記と繰り返しがあつたりしてわかりにくくて、それを分類してもう少し分かりやすくなるかなと思って、もっと難しくしています。

神様と民、私と民、この契約関係が、ことばでの関係、わざでの関係ということと、ことばが、さばきになるか、祝福になるか。ことばが信仰をあらわしている。誓いと賛美、ア-メンとハレルヤというように2つに分けられる。このさばきと祝福を人側で言うとき、信仰と賛美。ほめ称えるということです。祝福することばと善悪をさばくということですかね、信じる。ということで、この区分をして、神様から人をさばくことば、神が人をさばくわざというように分けてみるのが良いのではないかと。8個あることになりま。

申命記10章で、「主の命令を守って仕えなさい。そうすれば祝福を得ます。」というような箇所からも、それが言えるでしょうということだったのですが、関係がこれ(神様と民との契約関係図)を見ただけでは分かりにくいので、書き換えました。

# 神と民との契約関係図

2018.8.24



(新バージョン8/24)このバツテンになっているさばきのことばと祝福、これは方向を表しているバツテンではないのですね。ことばがさばきに与えられているという話ではないので、位置的には同じなのですが、線の意味が、ここ(神↓私)の線の意味を取り出して図にしたのがこちら(新バージョン8/24)です。

神様が人をさばくことばが、神様から来るほうですね。人を祝福することば。神様が人をさばく、人を祝福することと、逆側ですね。逆側のほうは、人が神様を信じることば、祈り。信じるわざ。人が神様を賛美することば、人が神様を賛美するわざ。1,2,3,4,5,6,7,8ということで、もう一度見直しました。

青色のほうが「ことば」。オレンジ色のほうが「わざ」というものを表しています。例えば、「神様が人をさばくことば」と言っているのは、命令とか戒め、律法というものです。それをこのストーリー(アブラハム契約・ダビデ契約/モーセの歌・ダビデの歌の図)の中で見ると、十戒、律法が与えられるところだなあというのを見たり…。申命記32章で、モーセがさばきの宣言をするような感じのところ、そのことばを言うのですが、神様のやったださること(1,2,3,4)を、代表であるモーセが民に対して言いますので、この2つが似ているのですよね。それで、1',2',3',4'と書いてあります。

「神様のことば」が、さばきのことばを与えることは、モーセが申命記32章で与えることばに並行している感じです。十戒が与えられること、申命記32章が与えられることというのが、1番。2番目は、契約、「祝福のことば」ですから、契約、約束のことば。アブラハムへの祝福のことば、ダビデの王と家の祝福のことば。3番目は「さばきのわざ」。エジプトから救い出す。敵をさばいて救い出す。そして、最後に(4番目)「祝福の

わざ)」ですね。名、大いなる名。地、子孫を与えるということで、カナン、エルサレム、神殿を与えますというようなところが4番目かなというように見てください。

5番目は「信仰のことば」を人が言うということです。誓い、祈り…ハンナの祈りとか。18篇もさばく王様ですということを告白している救われた日に歌っていますけれど、「救ってくれる」ということが強調されているような歌です。(6番目)「信仰をもってわざ」を行うというのは、仕える、戦う、ダビデ、ヨシュア。(7番目)「賛美のことば」。これは、賛美、感謝の歌ですね。(8番目)「賛美のわざ」というほうは、祭り、いけにえ、神殿を捧げる。捧げる行為です。

というように、5,6,7,8。5と7が、ことばの話。6と8が、わざ、行動を言っているというように分けて、それぞれの1番、2番、3番、4番。契約関係を8つに分けて、その側面で、次にこの全体の(アブラハム契約・ダビデ契約／モーセの歌・ダビデの歌の図)エジプトからカナンへ、古い幕屋がさばかれて、新しい神殿へというストーリーを見ていこうとしているところです。